

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成23年度農作物病虫害発生予察情報について

平成23年度農作物病虫害発生予報第11号を発表したので送付します。

平成23年度農作物病虫害発生予報第11号

平成23年11月28日
徳島県

I. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。

(2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないように十分に換気を行なう。

(3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行なう。特に、下葉には丁寧に散布する。

(5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行なう。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が20.0%、寄生葉率が7.2%であり、ほぼ平年(36.9%、3.4%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は葉裏にも十分に付着するように丁寧に散布する。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が16.0%, 発病葉率が0.8)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 罹病葉は早期に圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が24.0%, 発病葉率が1.4%)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(2) 発生が多くなると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬液は下葉の葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

オンシツコナジラミ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が21.3%, 発病葉率が3.4%)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.0%, 寄生葉率が0.1%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ミナミキイロアザミウマ (11月28日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生圃場率は100%, 寄生葉率は14.8%, 被害果率 3.0%であり、平年(53.3%, 7.2%, 0.1%)と比べて多めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

黒腐病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1)11月前半の巡回調査では、発生圃場率は50.0%, 寄生葉率は 5.2%であり、平年(28.3%, 1.4)と比べてやや多めの発生である。
- (2)11月25日発表の1ヶ月予報では、平年に比べて晴れの日が少ないが、平気気温は平年より高い確率が60%, 降水量は平年より多い確率が50%と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除効果が見られなくなるので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。特に強風雨の後にはできるだけ速やかに薬剤散布を行なう。
- (2)害虫による食害痕も病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も確実に行なう。
- (3)被害残渣は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

コナガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月前半のキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が10.0%, 10株当たり幼虫及び蛹数が0.04頭であり、ほぼ平年(13.6%, 0.2頭)並の発生である。
- (2)11月25日発表の1ヶ月予報では、平年に比べて晴れの日が少ないが、平気気温は平年より高い確率が60%, 降水量は平年より多い確率が50%と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。葉裏に生息しているので、薬液は葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。
- (2)薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1)11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 8.3%, 発病度が 0.2)。

(2) 11月25日発表の1ヶ月予報では、平年に比べて晴れの日が少ないが、平気気温は平年より高い確率が60%、降水量は平年より多い確率が50%と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 昨年、県内ではべと病菌レース8による発病が確認されたので、レース8抵抗性品種を利用する。作型等の関係で作付けできない場合には、薬剤による防除を徹底する。
- (2) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (4) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率は66.7%、寄生程度指数は2.2%であり、平年(26.8%, 0.6%)と比べてやや多めの発生となっている。
- (2) 11月25日発表の1ヶ月予報では、平年に比べて晴れの日が少ないが、平気気温は平年より高い確率が60%、降水量は平年より多い確率が50%と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が9.7%、発病葉率が0.5%)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。
- (3) 古葉は早めに除去し、薬剤が葉裏に充分かかるように丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (5) 展着剤は規定範囲内で多めに加用する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 11月後半の巡回調査では、発生圃場率が28.6%、寄生株率が8.6%であり、ほぼ平年(32.0%, 5.0%)並の発生である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

(3) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

ハダニ類 (11月14日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い), 発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 11月後半の巡回調査では, 発生圃場率が71.4%, 寄生葉率が13.0%であり, 平年(30.5%, 3.9%)と比べて多めの発生である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので, 初期防除に努める。

(2) ハダニ類は葉裏に寄生しているので, 薬剤が葉裏にも充分付着するように丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

II. その他

○ 薬剤の使用にあたっては, 必ず農薬ラベルの記載事項を遵守して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujyosyo/>

○病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。